

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年8月1日

**【四半期会計期間】** 第11期第2四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

**【会社名】** 株式会社paperboy&co.

**【英訳名】** paperboy&co., Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 佐藤 健太郎

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区桜丘町26番1号

**【電話番号】** 03-5456-2622(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼経営管理本部長 久保田 文之

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区桜丘町26番1号

**【電話番号】** 03-5456-2622(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼経営管理本部長 久保田 文之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第10期 第2四半期 累計期間		第11期 第2四半期 連結累計期間		第10期	
		自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(千円)	1,696,366		1,887,450		3,418,742	
経常利益	(千円)	357,063		361,732		709,655	
四半期(当期)純利益	(千円)	205,167		207,275		411,585	
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	-		207,275		-	
純資産額	(千円)	1,183,304		1,424,773		1,390,021	
総資産額	(千円)	2,748,995		3,156,526		3,001,443	
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	154.62		156.20		310.18	
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	153.94		155.63		308.90	
自己資本比率	(%)	43.0		45.1		46.3	
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	368,561		323,866		570,433	
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	50,894		135,510		242,910	
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	171,504		172,212		171,512	
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,776,436		1,802,427		1,786,284	

回次		第10期 第2四半期 会計期間		第11期 第2四半期 連結会計期間	
		自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	72.38		77.32	

- (注) 1. 当社は、当第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、第10期第2四半期連結累計期間及び第10期連結会計年度に代えて、第10期第2四半期累計期間及び第10期事業年度について記載しております。
2. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、平成24年6月1日をみなし取得日としてコミュニティ事業の一部である電子書籍関連事業を営む株式会社ブックログを新規連結しております。

この結果、平成24年6月30日現在では、当社グループは、当社及び子会社1社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項に記載した将来事象に関する予測・見通し等は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであり、それらには不確実性が内在し将来の結果とは大きく異なる可能性があります。

また、当第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、業績等の前年同四半期等との比較は行っておりません。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響からの緩やかな回復傾向にあるものの、欧州の財政不安や長引く円高、原油価格の高騰等の影響により依然として先行き不透明な状況が続いております。

こうした中、平成23年度における国内携帯電話端末の出荷台数は4,274万台と前年比13.5%増加し、このうちスマートフォンの出荷台数は2,417万台と、総出荷台数の約56.6%を占めるまでになりました（株式会社MM総研調べ）。このようにスマートフォン市場の拡大に伴う情報通信サービスの需要は引き続き好調に推移しており、既存サービスのスマートフォン対応やスマートフォン向けアプリなどの新たな市場が創出され、競争が激化しつつあります。

当社においては各サービスで主にスマートフォンやSNS向けの機能拡充を行ったことで契約件数が伸び、当第2四半期連結累計期間は売上高・営業利益共に堅調に推移しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高1,887,450千円、営業利益348,650千円、経常利益361,732千円、四半期純利益207,275千円となりました。

#### (セグメント別の状況)

##### ホスティング事業

ホスティング事業については、レンタルサーバー各サービスにおいてセキュリティの向上や機能向上を行いながら、他社からの乗り換えユーザーを対象とした割引キャンペーンなどを展開したことにより、当第2四半期末のレンタルサーバー契約件数は358,000件（前四半期比7,000件増）となりました。また、レンタルサーバー契約件数の順調な増加に伴い、ドメイン契約件数も堅調に推移し、登録ドメイン数は、797,000件（前四半期比21,000件増）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるホスティング事業の売上高は1,319,611千円、セグメント利益は431,439千円となりました。

##### EC支援事業

EC支援事業については、「お願いカラーミー」に寄せられたユーザーからの要望の高かった管理機能の改善、スマートフォン向け有料テンプレートの提供をはじめとするサービス内容の拡充やスマートフォンを中心とした集客支援を行ったことにより、当第2四半期末の「カラーミーショップ」契約件数

は38,000件（前四半期比1,200件増）、「カaramel」の出店店舗数は19,600件（前四半期比1,000件増）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるEC支援事業の売上高は425,460千円、セグメント利益は222,804千円となりました。

#### コミュニティ事業

コミュニティ事業は、会員数1,780,000名にのぼるブログサービス「JUGEM」において、ポータルページや各種スマホアプリのリニューアルを行い、PVの増加を図りました。また、有料プラン「JUGEM PLUS」では初期費用無料化やFacebook機能連携を行い、会員数増加やSNS連携の強化を図りました。その結果、当第2四半期末の「JUGEM PLUS」契約件数は19,800件（前四半期比500件増）となりました。

また、ブックレビューコミュニティサイト「ブクログ」についても、渋谷ヒカリエにおいて期間限定で「ブクログ図書室」をオープンし、Webサービスと実空間で体験できるイベントなどの企画を通じて知名度向上を図っており、会員数532,000名（前四半期比33,000件増）と順調に推移しております。

以上のように有料サービス・無料サービス共にユーザー数は増加し、スマートフォン向けの広告を中心にサービス全体の広告売上が堅調に推移した結果、当第2四半期連結累計期間におけるコミュニティ事業の売上高は142,378千円、セグメント損失は3,326千円となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は3,156,526千円となりました。これは、主にサービス用サーバー投資に伴う有形固定資産やサービス用ソフトウェア開発投資に伴う無形固定資産が増加したこと、売上及び利益の増加により現金及び預金、売掛金が増加したことによるものであります。

負債は1,731,753千円となりました。これは、主に会員数等の増加により前受金が増加したことによるものであります。

純資産は1,424,773千円となりました。これは、主に四半期純利益の計上等に伴い利益剰余金が増加したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、1,802,427千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは323,866千円の増加となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益の計上によるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは135,510千円の減少となりました。これは、主に固定資産の取得や投資有価証券の取得によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは172,212千円の減少となりました。これは、主に配当金の支払及び自己株式の取得によるものであります。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題は、以下のとおりであります。

(事業承継効果の早期創出)

連結子会社である株式会社ブクログは、平成24年6月1日付けで会社分割によりコミュニティ事業の一部である電子書籍関連事業を承継致しました。

今後、組織体制を整備し、当社グループとのシナジー効果等により、早期の事業承継効果の創出を図ってまいります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000
計	1,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月1日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,327,200	1,327,200	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,327,200	1,327,200	-	-

(注) 提出日現在の発行数には、四半期報告書提出日(平成24年8月1日)の新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	1,327,200	-	120,867	-	110,867

## (6) 【大株主の状況】

平成24年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
GMOインターネット株式会社	東京都渋谷区桜丘町26 - 1	830,000	62.54
GMOアドパートナーズ株式会社	東京都渋谷区桜丘町26 - 1	50,000	3.77
株式会社インターナル	神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目2 - 1	35,100	2.64
石田 渉	東京都港区	23,000	1.73
片岡 勝典	大阪府三島郡島本町	13,500	1.01
水谷 量材	兵庫県淡路市	11,000	0.82
佐藤 健太郎	東京都世田谷区	10,000	0.75
重田 康光	東京都港区	10,000	0.75
松田 博	滋賀県草津市	9,600	0.72
大野木 弘	千葉県八千代市	8,000	0.60
計	-	1,000,200	75.36

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,326,000	13,260	-
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	1,327,200	-	-
総株主の議決権	-	13,260	-



## 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社paperboy&co.	東京都渋谷区桜丘町26番1号	200	-	200	0.02
計	-	200	-	200	0.02

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

なお、当社は、当第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報は記載しておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	1,802,427
売掛金	497,761
その他	177,708
貸倒引当金	2,914
流動資産合計	2,474,983
固定資産	
有形固定資産	163,494
無形固定資産	156,647
投資その他の資産	361,401
固定資産合計	681,542
資産合計	3,156,526
<b>負債の部</b>	
流動負債	
未払法人税等	158,890
賞与引当金	11,200
役員賞与引当金	9,800
前受金	1,053,291
その他	485,989
流動負債合計	1,719,170
固定負債	
資産除去債務	12,582
固定負債合計	12,582
負債合計	1,731,753
<b>純資産の部</b>	
株主資本	
資本金	120,867
資本剰余金	110,867
利益剰余金	1,193,567
自己株式	586
株主資本合計	1,424,717
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	56
その他の包括利益累計額合計	56
純資産合計	1,424,773
負債純資産合計	3,156,526

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	1,887,450
売上原価	866,235
売上総利益	1,021,215
販売費及び一般管理費	672,564
営業利益	348,650
営業外収益	
受取利息	2
受取配当金	996
匿名組合投資利益	14,414
その他	588
営業外収益合計	16,002
営業外費用	
投資有価証券評価損	1,410
その他	1,510
営業外費用合計	2,920
経常利益	361,732
税金等調整前四半期純利益	361,732
法人税、住民税及び事業税	154,009
法人税等調整額	448
法人税等合計	154,457
少数株主損益調整前四半期純利益	207,275
四半期純利益	207,275

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	207,275
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	56
その他の包括利益合計	56
四半期包括利益	207,331
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	207,331
少数株主に係る四半期包括利益	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成24年1月1日  
至平成24年6月30日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	361,732
減価償却費	53,547
投資有価証券評価損益(は益)	1,410
賞与引当金の増減額(は減少)	11,200
役員賞与引当金の増減額(は減少)	9,800
匿名組合投資損益(は益)	14,414
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,045
受取利息及び受取配当金	998
売上債権の増減額(は増加)	58,486
前渡金の増減額(は増加)	19,405
その他の流動資産の増減額(は増加)	4,908
前受金の増減額(は減少)	101,090
その他の流動負債の増減額(は減少)	25,544
その他	391
小計	506,359
利息及び配当金の受取額	998
法人税等の支払額	183,491
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>323,866</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	50,246
無形固定資産の取得による支出	55,682
投資有価証券の取得による支出	30,288
関係会社株式の取得による支出	5,100
敷金及び保証金の回収による収入	5,744
その他	62
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>135,510</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
自己株式の取得による支出	68
配当金の支払額	172,143
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>172,212</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	16,143
現金及び現金同等物の期首残高	1,786,284
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,802,427

## 【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
連結の範囲の重要な変更 当第2四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ブクログを連結の範囲に含めております。

## 【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

当社は、当第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

項目	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
1. 連結の範囲に関する事項	連結子会社の数 1社 連結子会社の名称 株式会社ブクログ
2. 持分法の適用に関する事項	該当事項はありません。
3. 連結子会社の四半期決算日等に関する事項	連結子会社の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。
4. 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券</p> <p>(イ) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(ロ) その他有価証券</p> <p>a 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>b 匿名組合出資金の会計処理 組合出資を行うに際して、匿名組合の財産の持分相当額を「匿名組合資金」として計上しております。匿名組合の出資時に「匿名組合出資金」を計上し、匿名組合が獲得した純損益の持分相当額については、営業外損益に計上するとともに同額を「匿名組合出資金」に加減する処理を行っております。</p> <p>たな卸資産 貯蔵品 総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算出)を採用しております。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>有形固定資産</p> <p>定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 3～15年 工具器具及び備品 4～20年</p> <p>また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌日から5年間で均等償却する方法によっております。</p> <p>無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能見込期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p>

	<p>長期前払費用 定額法を採用しております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員及び役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、一定の基準による支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 四半期連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の四半期財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(5) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金からなっております。</p> <p>(6) その他四半期連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税及び地方消費税の会計処理 税抜方式によっております。</p>
--	--

## 【注記事項】

## (四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
給料及び手当	224,685 千円
貸倒引当金繰入額	1,045 "
賞与引当金繰入額	11,200 "
役員賞与引当金繰入額	9,800 "

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
現金及び預金	1,802,427 千円
現金及び現金同等物	1,802,427 千円



## (株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月20日 定時株主総会	普通株式	172,510	130	平成23年12月31日	平成24年3月21日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額合計 (注)2
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,319,611	425,460	142,378	1,887,450	-	1,887,450
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,319,611	425,460	142,378	1,887,450	-	1,887,450
セグメント利益又は損失( )	431,439	222,804	3,326	650,916	302,265	348,650

(注) 1 セグメント利益の調整額 302,265千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	156円20銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	207,275
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	207,275
普通株式の期中平均株式数(株)	1,326,995
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	155円63銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	4,836
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年7月31日

株式会社paperboy&co.

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松野 雄一郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡田 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社paperboy&co.の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社paperboy&co.及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。